

平成 25 年度 特別養護老人ホーム「喜久の園」事業報告書

第1 概況

1 基本理念、目標実現への取組み

基本理念の「ご自宅の安心感と科学的介護の実践」のために、特に感染症予防と事故防止対策に努めた結果、利用者の感染症発生は24年度に続き25年度もゼロとなった。また、事故件数も213件と前年の375件に比べて大幅に減少した。

一方、利用者満足度向上のための余暇、レクリエーション活動は、歌声広場、ユニット行事を中心に開催回数、参加者数ともに大幅に増加し「明るい歌声と花と緑そして笑顔あふれた生活の場」の実現に努めた。

2 個人の尊厳尊重と利用者満足度向上への取組み

個人の尊厳を守り利用者満足度向上のためには、楽しみの積極的な提供はもとより食事・入浴・排泄の介助状況や苦情件数、面会者数などの指標は大切であり、その改善に取り組んできた。この結果、課題はあるが大半の指標が、前年より少しずつではあるが向上してきている。

3 経営の安定と人材確保への課題

一方、課題としては、厳しい経営環境がある。24年度の建物償還金の借換えにより年間償還額が減少し、25年度は収支の均衡が図られ、光陽荘からの繰入れはなかった。しかし、償還金返済後の単年度の実質的な黒字幅は200万円以下であり、常に緊張ある収支状況に置かれている。このため、職場改善の更なる取組みによるコスト意識の徹底による経費削減が必要である。

また、人材確保面では、夜勤対応職員の減と共に結婚等ライフプランによる離職見込みなど厳しい状況がある。このため、適正な人員の確保及び教育・研修の充実による職員一人ひとりのレベルアップと人材育成が必要である。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成25年度の利用率は、下表のとおり前年度に比べて長期入居は0.6%減少したが、短期入居は前年度に続き3%近く増加した。この要因として、長期の減少は、夏から秋にかけて長く入院した利用者が複数いたこと、一方、短期の増加は、感染症が発生しなかったこと、余暇活動の増加など利用者満足度向上に取り組んだことが考えられる。

また、長期の利用率に影響する入退去（長期）に係る所要日数は、平均6.2日と前年度の7.0日よりやや短縮した。

なお、目標の利用率は、長期99.5%、短期90%はである。

（単位 %）

区分	25年度	24年度	増減
長期入居者50人	98.3	98.9	△0.6
短期入居者10人	86.4	83.6	2.8

2 経営状況（経常活動による収支）

平成 25 年度の事業活動による収入は 281,444 千円で、支出は 261,572 千円で、収支差は 19,872 千円の黒字で、前年度の収支差の－4,211 千円に比べて 24,084 千円増加した。

しかし、これは 24 年度の事務費の雑費に福祉医療機構への弁済補償金 22,185 千円が含まれているため、これを差引いた実質的な黒字増は、1,899 千円である。

なお、24 年度の建物借入金の借換えにより償還金が大幅に減ったため、25 年度は光陽荘からの繰入金が開設以来初めてゼロとなった。

収入

(単位 千円)

区分	25年度	24年度	増減
介護保険	278,954	280,605	－1,651
その他収入	2,490	3,194	－704
計	281,444	283,799	－2,355

支出

区分	25年度	24年度	増減
人件費	192,896	194,651	－1,755
事務、事業費	68,676	93,360	－24,684
計	261,572	288,011	－26,439

3 職員状況（部門別職員数）

平成 25 年度末の全体職員数は 51 名で、正規職員は 28 名で、内訳は介護職員 21 名、看護職員 3 名、事務室職員（調理含む）5 名である。一方、非正規職員は嘱託職員を含め 23 名である。これは、前年同期の 51 名と同数である。

なお、26 年 4 月 1 日現在の職員数は、非正規職員が 1 名減の 50 名である。

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

(単位 人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護主幹	主任 CM 兼事務 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護師 嘱託医師	管理栄養士	
正規	3	1	—	21	3	1	28
非正規	—	2	3	14	4	—	23
計	3	3	3	35	7	1	51
25 年同期	3	3 (2)	3 (3)	35 (16)	6 (3)	1	51 (24)

注) 1 25 年同期の () は、非正規職員である。

2 他に育休中が 1 名いる。

4 施設整備等の状況

施設整備のための工事は特になかったが、洗濯乾燥機や電子錠修理のための修繕に 53 万余円要した。

5 特記事項

(1) 事故防止と苦情解決への取組み (資料編 11.18)

事故防止は、ケアの質向上の大きなポイントであり、事故防止委員会では原因分析や再発防止に取組み、25年度は213件と前年より162件減少した。なお、新年度は160件以下を目標としている。また、苦情件数も4件と前年の10件より減少した。

(2) 余暇、レクリエーション活動の状況

個人の尊厳や利用者満足度向上のためには、余暇活動は重要であり歌声広場や各ユニットでの行事を中心に実施した。この結果、特に歌声広場の参加者が大幅に増加した

区分		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
歌声広場 (嚙下体操)	回数	62	60	60	73	255
	利用者数(人)	1,124	1,146	1,114	1,531	4,915
	1回平均	18.1	19.1	18.6	21.0	19.3
各ユニット 行事等	回数	6	10	14	13	43
	利用者数(人)	54	86	130	141	411
	1回平均	9	8.6	9.3	10.8	9.6

(3) 家族、利用者との交流行事の開催

① 家族懇談会 5/18 (土) 開催—32家族 (41名)

内容： 事業方針、年間事業計画の説明。職員紹介。まぐろの解体ショー

② 納涼祭 7/20 (土) 午後開催—長期入居者 37名・短期入居者 5名

・39家族 (54名) ・招待 21名・ボランティア 8名

内容： 屋内で開催。出店品を楽しみ、ミニゲームの企画、マジックショー実施
歌声広場を通して日頃のレクリエーション活動も紹介し、またご家族も参加。ボランティア活動の方や近隣の方も招待。

③ 敬老祝賀会 9/14 (土) 開催—長期入居者 38名・短期入居者 9名、

・32家族 (52名) ・来賓 10名

内容： 式典・記念品贈呈、歌声広場 ～喜久の園歌声合唱団～

(4) 研修、モデル開発への取組み

人材育成のカギとなる研修充実のために、園内外の研修の他に、県立短大委託の介護技術向上のための基礎研修及び科学的介護の実践に係る介護福祉事業のモデル開発を進めた。

○ 法人基礎研修→会場 地域交流センター「うらら」 (喜久の園)

(研修項目) (開催日) (開催回数) (参加人数)

・社会福祉論 8月29日・9月5日 2回 延 4名 (実人数 2名)

・生活支援技術 9月12～10月24日 7回 延 44名 (実人数 13名)

○モデル開発関係

・施設の調査・評価 8月8日～1月16日 6回 (意見交換会、聞き取り調査等)

(5) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場さらに各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、25年3月の地元仲島自治会との「防災に関する覚書」に基づく防災用品を保管、管理している。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門（資料編 8・16）

施設全体を把握し、事務処理し管理する部門として、利用者、家族には来園しやすく、職員には働きやすい機能的な勤務環境整備のため、次の取組みを進めた。

- ① 来園者するすべての方への接し方次第で施設の印象が決まることを常に意識し、明るいあいさつ、応対に心掛けた。なお、年間面会者は4,645名で前年より微増した。
- ② 施設全体の環境美化、緑化に努め、明るい清潔な施設環境づくりを進めた。
特に玄関には、生け花教室ボランティアの協力で常時活花が置かれるようになった。
- ③ 働きやすい勤務環境のために、職場改善活動（一人一改善）に取り組んだ結果、42名の職員から改善28件、提案等25件計53件の提出があり、職場改善を進めた。
- ④ 「業務分析及び職場改善提案」を基に、全職員との個別ヒアリングを、年2回行い職員の意識啓発と共に施設運営改善を進めた。
- ⑤ 余暇活動、嚙下体操、認知症対策の一環として、歌声広場と称した合唱を、カラオケ機器を活用し、ほぼ毎日行うことで利用者の歌声が明るい響く環境づくりに努めた。
- ⑥ ボランティア懇談会（4/8.11/15）を開催し、意見交換と共に助言等をいただいた。
- ⑦ 施設運営の生産性向上及び経費節減のために、リース契約や委託契約の内容精査に努める中で、消耗品や修繕費を中心に経費節減に取り組んだ。
- ⑧ 保険請求に係る各種加算の算定要件の把握と確保に努めた。
- ⑨ 事業計画、予算の執行状況の把握に努めた。
- ⑩ 主な会議を次のとおり開催したが、機能する運営を目指し、原則ワンペーパー説明、1時間以内を目安に進めた。

ア 職員全体会議（年4回 開催 — 4/26、8/30、10/25、3/25）

職員全員が参加する会議として、施設の基本方針、事業計画等を説明すると共に感染症、看取り等の研修会及び防災訓練なども併せ実施した。

イ 幹部会議（毎月2回、年24回 開催）

施設長・副施設長・介護部長（介護部主幹）・医務室長をメンバーとして、施設の課題の検討・決定、各部署間の調整を行った。なお、6/12（第5回）からショートステイ担当相談員もメンバーとして出席し、各部署間の連携強化に努めた。

ウ 管理運営会議（毎月1回 年12回 開催）

幹部会議メンバーにフロアリーダー・医務室主任・管理栄養士を加え、さらに25年度からは介護支援専門員もメンバーとし、情報の共有化と施設運営の意思統一を図る会議としてその機能強化に努めた。

なお、会議内で入居判定会も実施し、入居手続き業務の迅速化等を図った。

2 介護部門（資料編 5.6.7.18）

当園の基本理念、目標を、現場において実践する部門として、次の取組みを行った。

- ① 施設の基本理念がケアプランに反映され、機能するように居室担当職員との連携を図るように努めた。
- ② 利用者や家族の参加の下、サービス担当会議を実施した。
（入居3か月後には必ず開催した。その他状況に応じ年間30回程開催）

- ③ リーダー会議を毎月1回、年13回開催
各部署・ユニットからの問題提起を事前に精査・検討し、会議時間の有効活用を図った。各リーダーが交代で議題案を作成、司会を務めることで、問題意識やケアの方向性を認識すると共にリーダーとしての資質を養うよう努めた。
- ④ ユニット会議の毎月1回開催を目指し、実施
ユニットリーダーが主催し、処遇方針の論議・問題解決・企画の計画に当たった。
特に、11月からは今までの夜間から日中に会議を行い、他部署の参加により会議の活性化に繋がった。
- ⑤ フロア会議を各フロア年3回以上開催
フロアリーダーが主催し、フロア内の協力体制の強化と共に、相互にフォローに入り、他フロアの様子を把握することで横断的な介護体制を確保した。
- ⑥ 処遇別委員会
「排泄」「入浴」「食事」「介護力向上」「ショートステイ」の会議を介護職員が主体となって随時開催し、処遇内容の検討・統一に努めた。
- ⑦ 研修・スキルアップについて
法人研修《科学的介護の実践に係る介護福祉事業のモデル開発》の1年目であり、基礎研修、個別研修に参加した。また、灯光園への視察、くにやす苑との施設間職員交流研修を行い、ケア技術と意識レベルの向上に努めた。
各職員のスキルチェックを元に、12月から各リーダーより介護技術指導を行った。
また、感染症の研修結果を感染対策に反映し、利用者の感染症ゼロを達成した。
- ⑧ 食事に係る取組み
ユニットでの盛付けに関して、施設内で聞取りを行い、厨房での盛付けの協議・検討をした。また、科学的介護実践の一環として取り組んでいる水分摂取量は、一人当たり928ml/日（前年916ml）であった。
- ⑨ 余暇・レクリエーションへの取組み
ボランティアの協力を得て利用者との散歩やゲーム等のレクリエーションを実施した。各フロアで、お花見ドライブや行事（端午の節句・七夕・運動会・クリスマス会・新年祝賀会・節分・雛祭り等）季節に合った企画をたて実施した。
午後2時～の歌声広場参加により、日々の生活の中で家族を含め多くの利用者が歌う楽しみが増え、利用者間の仲間意識も強まり、生活にリズムや張りが出た。
- ⑩ 利用者の寄り添う時間を増やすために、業務の見直し(9月ケア確認表導入、10月経過支援記録廃止等)朝礼の活性化等行った。
- ⑪ 12月から居室担当・副担当制を導入し、全介護職員が積極的に利用者のケアに関わることができるように努めた。

3 相談部門（資料編 11）

利用者、家族と施設を結ぶ部門として、利用者満足度向上のため、次の取組みを行った。

- ① 利用者、家族からの要望に対し、傾聴する姿勢を常に心掛け、迅速な対応に努めた。
- ② 利用者満足度の向上、苦情ゼロ、事故件数大幅削減を目指し、利用者、家族の声を運営に活かしていくよう努めた。前年度の苦情件数10件に対し、25年度の苦情件数は4

件であった。しかし、ゼロには至らなかったこととや件数減少がケアの質向上に必ず結びつくよう再認識する必要がある。

- ③ 万一の事故発生時には、適切な対応と共に家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と併せ「信頼」も得られる対応に努めたものの、入院治療を要する事故の発生を未然に防ぐことができなかった。今後とも利用者、ご家族との関係構築の面からも引き続き検討を要する課題である。
- ④ 静岡県指定介護老人福祉施設優先入居指針に基づいた入居希望者名簿を作成、随時相談に応じつつ、希望者の実情把握に努め、緊急を要すると思われる事例には迅速に対応した。優先入居検討委員会を2回実施（11/28、3/10）
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として、実習生1名を受入れし、就職先として選ばれる施設づくり、相談援助業務を担う人材確保に努めた。

4 看護（医務）部門

施設の看護、医務を担う部門として、嘱託医師との連携のもと事故防止、医療ケア対策、感染症防止等のため、次の取組みを行った。

- ① 医務室会議（年6回開催）、健康診断（入居者・職員：年2回実施）
 菊川市立総合病院及び市内社会福祉施設等連絡会出席（年4回）
 サービス担当者会議に参加し、統一した看護・ケアに心掛けた。
- ② 昨年度から内科嘱託医へ、全入居者の一覧表を作成し、見やすさと事前にFAX送信することで、円滑な回診が行えるように努めた。また、精神科も含めFAX・電話・来診で連絡を取合い連携を密にし迅速な対応に努めた。
- ③ 事故防止の一環として、ショート委員会と共同し利用前の情報収集・お薬手帳の持参等依頼し、内容のチェック・ほのぼのの定期薬剤への入力をした。また、時間投薬や外用薬の札を作成し、ユニットに提示し投薬ミスの防止に努めた。
- ④ 介護職員への医療知識・技術チェックを年2回実施。
 また、個別指導を行いスキル向上に努めた。
- ⑤ 学習会の開催
 【看取り介護委員会】・コミュニケーションの大切さ
 ・エンゼルケアについて
 【感染症対策委員会】・感染症の基本について
 ・嘔吐物の処理方法：疥癬・結核・蜂窩織炎について
 【医療的ケア推進委員会】・口腔内の吸痰・経管栄養を効果的に施行するためのケア
 ※アンケートをとり、その意見を次のステップにつなげることができた。
- ⑥ 看取り介護では、計画書から振返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、ご家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わずお見送りすることができ、多くの感謝の言葉をいただいた。また、他職種からの告別式へ参列することにより、更にご家族、利用者に対する職務の役割、責任の重さなどの意識が高められるようになった。
- ⑦ 感染症対策委員会を中心に予防に努め、集団感染症の発生を前年度に続きゼロに抑えた。
- ⑧ ユニット会議の日中開催に伴い、参加可能となり他職種との連携が迅速化された。
- ⑨ 衛生委員会を発足・職員の健康管理を行うとともに健康増進に努めた。

5 食事部門

食事は、利用者にとって最も重要な命の糧であり最大の楽しみであることを鑑み、食事の充実のために、次の取組みを行った。

- ① イベント食を定期的に行い、食事提供の充実を図った。
(まぐろの解体ショー、流しそうめん、さんまの炭火焼、焼き芋、バイキング等)
- ② 季節感を感じる行事食を、月 1 回提供するよう心掛けた。(イベント食含めて年間 50 回)
- ③ ソフト食の検食を全職員対象に行い、アンケートを実施した。
- ④ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努め、衛生管理チェック表を月 1 回提出してもらい確認した。
- ⑤ ユニットでの調理実演を行い、出来たての物を食べていただけるようにユニットでの調理を計画した。(おやつ作り、揚げたて天ぷら、お好み焼き、ラーメンとしゅうまい)
- ⑥ 食事形態の見直しを各部署と連携し実施したが、時間を要し早急な対応が必要であった。
- ⑦ ケアプランと栄養プランが連動した計画書を、介護支援専門員と連携の上作成し、食事の重要性をプランにも反映できた。
- ⑧ 副食の刻み加工を厨房、盛付けはユニットで行い、配膳から提供までの時間が短縮化した。
- ⑨ 感染症、食中毒防止のために、ユニット内冷蔵庫の食品管理、キッチン周りの清潔を保つようチェックした。
- ⑩ 委託業者との月 1 回の打合せを通じて、給食材料費の収支報告の精査と併せて厨房業務全般について意見交換し、円滑な業務推進に努めた。
- ⑪ 食事委員会を月 1 回開催し、食事内容や食事提供方法の改善に努めた。

6 各委員会

施設運営の要となる各委員会が十分機能するために、事務局体制の整備と基本方針の見える化を行うことで、委員会の充実に取組んだ。

- ① 教育・研修委員会
 - ア 毎月 1 回委員会を開催し、一人一研修及び県立短大委託研修の実効性を上げるための取組みを行った。
 - イ 科学的介護の実践の先駆的施設である「灯光園」への視察、さらに初の試みとして施設間職員交流研修を「くにやす苑」と実施した。
- ② 企画・広報委員会
 - ア 毎月 1 回委員会を開催し、企画・広報の充実と見える化を進めた。特に、余暇充実のため、歌声広場は、年間 255 回開催し、その延参加者約 5 千名と大幅に増加した。
 - イ 各ユニットの企画する余暇対策も企画書様式の簡素化など図ることで増加した。
 - ウ 広報は、年 4 回期限どおり発行され、内容の充実に努めた。
- ③ 防災委員会
 - ア 被害想定をふまえた消火・避難・通報体制の確保等の防災対策に取り組んだ。
 - イ 防火安全対策の徹底を図るため、毎月定期的にフロア・ユニットごとに消防設備の取扱い方法、避難経路の確認機会を計画したものの口頭での説明がほとんどであり、毎月実施には至らなかった。
 - ウ 年 2 回以上の夜間訓練を計画、実施したが、入居者・職員多数が参加する避難誘導訓練の実施には至らなかった。

エ 災害時優先電話による連絡体制の整備と共に、災害時において有効な連絡手段となる情報を単語化し、携帯ショートメールで送信する方法も検討のみで実施には至らなかった。

④ 苦情解決委員会

- ア 常に利用者の立場に立った対応と再発防止に心掛けた。
- イ 早期対応、関係者への迅速な周知と情報の共有化に努めた。
- ウ 苦情件数は、4件と前年度の10件に比べて大幅に減少した。

⑤ 個人情報保護委員会

- ア 入居者、家族、職員の個人情報の漏えいや承諾なく情報が公表されないよう情報管理の徹底に努めた。
- イ 職員緊急連絡網作成による職員の電話番号に関する管理を徹底した。

⑥ 事故防止委員会（資料編 18）

- ア 毎月1回の委員会開催。毎月の事故状況を把握・分析することで、事故防止への意識を高めた。
- イ 千寿の園と事故の項目の統一、事故要因分析及び解決方法への具体化に向け、喜久の園独自の区分を取入れた。事故発生時の家族連絡の徹底を申合わせた。
- ウ 事故件数は、213件と24年の375件、23年の475件に比べて大幅に減少した。

⑦ 身体拘束廃止委員会

- ア 毎月1回会議開催。拘束に対する研修を年1回実施した。
- イ 11月に職員が抑制服・ミトンを着用し、拘束される身体的・精神的苦痛を体感
- ウ 委員会では、身体拘束対象者の現状を把握し廃止に向けて、委員会から該当ユニットに発信し、拘束への考え方もより真剣になり部署間同士の連携は取れてきた。
- エ 委員が〈身体拘束廃止フォーラム〉に参加し、委員会内で研修報告を行い、学びや情報の共有に努めた。

⑧ 看取り介護委員会

- ア 会議：年12回開催
- イ 学習会：年2回開催 4/26「コミュニケーションの大切さ」
3/28「エンゼルケアについて」
- ウ 看取り期に近い利用者の状態や、看取り介護での反省点、ご家族からの感謝の言葉などを報告した。
- エ 今年度から告別式に直接処遇者も参列するようになり、更に看取り介護への意識向上に努めることができた。また、告別式への参列後、事務連絡にて全職員へ報告された。
- オ 昨年度からの取組みで退去される際、全館放送で音楽を流すことで他の利用者様も含み多くの人でお見送りができた。
- カ 看取り介護では、計画書から振り返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わずお見送りが出来良かった。

⑨ 感染症対策委員会

- ア 会議：年12回開催
- イ 学習会：年2回開催 4/26「感染症対策の基本」
10/25「嘔吐物の処理方法」「疥癬・蜂窩織炎・結核」

- ウ 5月 食中毒に関して「喜久の園での注意点」を提示
 - エ 6月 ブラックライトによる手洗いチェック実施
 - オ 10月 流行期に合わせ、出勤前検温実施、翌4月までインフルエンザ予防接種実施（入居者・職員）
厚労省のポスターを施設内に提示
 - カ 12月 感染症防止の超音波電解水噴霧器の玄関設置
病院連絡会に参加 学習会「感染対策の基本について」
 - キ 嘔吐物処理の研修実施 ※介護職員1人1人に指導
 - ク 事務連絡にて、最新の情報の伝達を行い、職員へ注意・周知を促した。
 - ケ 感染症流行期における以下の事について明確に提示。
「ショートステイの対応について」、「歌声広場の対応について」、
「家族(同居)がインフルエンザに罹患した際の対応について」
 - コ 昨年同様、ショートステイ利用者宅へ「感染症疑い時の文書」を配布
 - サ 嘱託医との連携を密にし、早期発見に努め集団感染症を発症せず経過した。
- ⑩ 医療的ケア対策推進委員会
- ア 会議：年5回開催。
 - イ 学習会：3/28「口腔内の吸痰・経管栄養を効果的に施行するためのケア」
 - ウ 医療知識・技術スキルチェック（経管栄養・吸引含む）：年2回施行
 - エ 自己採点し、各担当フロアNsが個別採点・指導・評価を実施し、総括評価をまとめた。
 - オ 口腔内（咽頭の手前まで）の吸痰の同意書：入居者全員取得
 - カ 胃瘻による経管栄養の同意書：海フロア3名・空フロア2名取得。
- ⑪ 介護技術向上委員会(前褥瘡対策チーム)
- ア 年4回、会議を開催。
 - イ 『褥瘡予防対策についての実施及び評価』の用紙を居室担当者に毎月記入を依頼。
委員、看護師、管理栄養士で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・検討・情報共有に努めた。
 - ウ 委員が移乗技術を学び、介護部のスキルチェックを元に、指導を行った。
 - エ 10/15「介護力向上研修」に介護部長1名、管理栄養士1名CW1名参加。
12/6「車椅子にズレないシーティング」→Ns1名・CW4名出席

第4 短期入所生活介護事業所（資料編18）

選ばれるショートステイのため、利用者満足度を高める必要があり、次の取組みを行った。

- ① 1日平均利用率が、83.6%→86.4%へと2.8%向上した。
- ② ショートステイ委員会を毎月開催して、利用者の情報把握や現場の状況確認を行った。
- ③ 利用者満足度を高めるために、今まで以上に職員間の連携を大事にして「喜久の園を利用して良かった」と言ってもらえるよう努めた。
- ④ ショートステイ担当看護師を通して医務室と連携し、利用者様の体調不良時も迅速に対応した。
- ⑤ 余暇の充実を目指し歌声広場への参加を促した。また、毎月定期的にレクレーションを行う事で余暇時間を楽しく過ごして頂くことに努めた。

- ⑥ 利用中の様子を写真撮影しご自宅へ持ち帰って頂き、施設での様子をお知らせするサービスを始めた。
- ⑦ 来園時のおしぼり、お茶提供等、全体的におもてなしの雰囲気を利用者様の受入れを行った。
- ⑧ 受入れ前の体調確認を徹底し、感染症の持込みを防ぐことができた。
- ⑨ スムーズな受入れ、送出しができるよう『ショート担当職員』を毎日設け、担当者が一日を責任もってレイアウトするようにした。
- ⑩ 利用率向上のため、各事業所への空室状況の案内を積極的に行った。

資料編

(平成25年度/平成26年3月31日現在)

喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成26年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	0	3	3	5	11
女性	0	2	9	17	10	38
合計	0	2	12	20	15	49
割合(%)	0.0%	4.1%	24.5%	40.8%	30.6%	100.0%

平均要介護度	3.98	(男性 4.18	女性 3.92)
平成24年度	4.00	(男性 4.25	女性 3.95)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成26年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	0	0	1	2	3	2	2	11
女性	3	0	1	1	7	9	12	5	38
合計	4	0	1	2	9	12	14	7	49

(平成25年3月31日現在)

	合計
男性	8
女性	41
合計	49

3 利用(入居)者平均年齢

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	86歳0か月	59歳8か月	100歳6か月
女性	87歳2か月	59歳9か月	99歳10か月
合計	86歳9か月	—	—

(平成25年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	82歳0ヶ月	58歳8ヶ月	94歳8ヶ月
女性	86歳9ヶ月	58歳9ヶ月	100歳3ヶ月
合計	85歳11ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成26年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	7	4	0	0	0	11
女性	13	5	7	5	8	38
合計	20	9	7	5	8	49

(平成25年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	6	0	0	1	1	8
女性	12	5	8	10	6	41
合計	18	5	8	11	7	49

5 食事介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	12	24.5%
一部介助者	7	14.3%
介助なし	30	61.2%

(平成25年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	9	18.4%
一部介助者	6	12.2%
介助なし	34	69.4%

6 入浴介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	27	55.1%
個 浴	22	44.9%

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	28	57.1%
個 浴	21	42.9%

7 排泄介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	19	38.8%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	23	46.9%
歩行、杖等でのトイレ使用者	7	14.3%

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	25	51.0%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	18	36.7%
歩行、杖等でのトイレ使用者	6	12.2%

8 面会状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
人 数	339	365	330	435	415	549	329	330	431	407	340	375	4,645	4,623
1日平均人数	11.3	11.8	11.0	14.0	13.4	18.3	10.6	11.0	13.9	13.1	12.1	12.1	12.7	12.7

9 帰省(外出)状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
人 数	9	8	4	10	7	6	5	5	8	10	2	7	81	83
日 数	12	10	6	13	9	8	5	7	12	13	4	10	109	115

10 入居・退去状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
入居者数	2	1	2	0	3	0	5	0	0	3	3	1	20	19
退去者数	1	1	2	2	1	3	2	0	1	3	2	2	20	20
月末在籍者数	50	50	50	48	50	47	50	50	49	49	50	49	592	594

(平成25年度)

	入 居			退 去			平成24年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	7	13	20	4	16	20	19	20		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅		5	死 亡		19	居宅	5	死亡	20
	病 院		0	他施設・長期入院		1	病院	2	他施設 長期入院	0
	施設(老健等)		15	居 宅		0	施設	12	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
苦情受付件数	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4	10

2) 苦情の分類一覧

(平成25年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	4

(平成24年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	1
他の利用者・職員に関わる事項	3
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	3
合計	10

12 他医療機関への受診状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成24年度
内科	2	1	1	0	1	3	1	3	2	2	1	5	22	16
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	4	1
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	5	5
眼科	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	7	4
皮膚科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	2
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	2	1	2	2	3	5	4	4	3	3	9	41	34

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成25年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成24年度	
内科	11	泌尿器科	0	1	0
循環器科	0	整形外科	1	0	3
脳外科	0	口腔外科	0	0	0

2) 処置状況

(平成26年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成25年3月31日現在	
経口与薬	43	経管栄養	6	48	4
創傷処置	5	バルーンカテーテル挿入	1	3	1
軟膏塗布	7	洗腸、摘便、軟膏貼付	適宜	0	適宜
点眼	4			0	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成25年度)

月	回数	月	回数	平成24年度	
4月	1(4)	10月	2(16)	2(4)	2(5)
5月	1(5)	11月	0(8)	1(3)	1(7)
6月	1(5)	12月	1(8)	2(15)	2(11)
7月	2(13)	1月	3(13)	2(4)	2(9)
8月	1(10)	2月	2(11)	1(4)	2(8)
9月	2(7)	3月	1(12)	3(8)	1(4)
合計		16(112)		21(82)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成25年度)

月	回数	月	回数	平成24年度	
4月	0(3)	10月	3(0)	4(5)	2(1)
5月	0(2)	11月	0(0)	4(3)	0(0)
6月	0(0)	12月	1(2)	2(3)	2(3)
7月	1(2)	1月	1(2)	2(3)	2(1)
8月	3(0)	2月	2(1)	1(2)	1(3)
9月	1(4)	3月	1(6)	2(2)	1(3)
合計		13(20)		23(29)	

14 所在状況

(平成26年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成25年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	44	18	16	42	18	17
掛川市	4	2	3	5	1	1
牧之原市	0	0	0	0	0	0
島田市	0	0	0	0	0	0
御前崎市	0	0	1	1	0	2
袋井市	1	0	0	1	0	0
合計	49	20	20	49	19	20

15 入居申込み(待機者)状況

(平成26年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成25年3月31日現在
菊川市	231	208
掛川市	13	12
牧之原市	4	5
御前崎市	1	0
島田市	2	2
袋井市	1	1
浜松市	1	2
磐田市	1	1
静岡市	1	1
県外	3	3
合計	258	235

16 ボランティア(慰問)状況

(平成25年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
毎週火曜日	生け花 松風花道会	生け花講座受講者の方の作品展示
毎月2回 (第2第4火)	ふれあい犬	犬とのふれあい
毎月第3火曜日	傾聴・お話しボランティア	傾聴・入居者とのふれあい
毎月第1火曜日	ハーモニイ青葉	ハーモニイ演奏と入居者馴染みの歌の披露
毎月1回	ハーモニイ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニイ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	菊川市赤十字奉仕団	入居者とのコミュニケーション・外出支援
隔月(年5回)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
不定期	お話しボランティア	入居者とのコミュニケーション・散歩
不定期	歌声 ボランティア	歌声広場への参加。入居者とのふれあい
不定期	ちぎり絵 ボランティア	ちぎり絵 作品の展示、寄贈
不定期	季節の飾り 創作	季節を感じられる飾り物の制作
7月13日	菊翠会	日本舞踊 披露
7月20日	マジック迷人 マジックショー	納涼祭でのマジック披露
	えぷろんの会	納涼祭 出店のお手伝い
8月21日	フラダンス・ウクレレ演奏	フラダンスの披露とウクレレの演奏
10月20日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
クリスマス	サンタクロース ボランティア	各フロアのクリスマスイベントに参加

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成25年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
明るい社会づくり推進協議会菊川支部	タオル寄贈	1	1	小笠高等学校 3年	納涼祭 お手伝い	1	1
菊川市 民生児童委員	施設周辺の草刈り	6	1	菊川西中学校 3年		1	1
岳洋中学校 1年 福祉体験学習	補助業務 コミュニケーション	11	11	菊川東中学校 2年		1	1
大浜中学校 3年 福祉施設体験	補助業務 コミュニケーション	11	11	菊川東中学校 1年		2	2
六郷小学校 4年 ボランティア体験	歌声広場	2	1	六郷小学校 6年		2	2
六郷小学校 5年 ボランティア体験	コミュニケーション	25	3	六郷小学校 5年		1	1
六郷小学校 6年 ボランティア体験	清掃	2	1				

平成25年度 合計 年間延日数 66日 年間実人数 37人

平成24年度 合計 年間延日数 97日 年間実人数 49人

18 事故調査状況

(平成25年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成24年度
怪我	転倒	1	2	0	0	1	2	3	1	2	0	0	0	12	16
	転落・滑落	5	3	2	5	0	0	1	0	0	2	1	0	19	16
	(摩擦)6月～外傷	7	4	10	9	3	6	15	5	4	8	9	7	87	121
	衝突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
食物	誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異食・誤飲	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	7	14
	経管栄養	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4	17
薬	誤薬	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	1	0	6	5
	投薬忘れ	3	5	1	3	3	1	2	0	1	2	2	3	26	19
	内服薬	1	1	3	0	1	2	4	0	0	0	0	0	12	38
	配薬	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1
ケア	爪切り	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4	4
	ケア提供	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	13
	ショート忘れ物	2	0	1	1	0	2	1	1	0	0	0	0	8	16
物損	私物紛失	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2
	物損	5	3	2	0	1	0	1	0	2	2	1	1	18	40
	利用者同士のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
合計		31	20	21	20	10	16	27	9	11	16	17	15	213	375

19 実習状況

(平成25年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成24年度	
東京女子医科大学	基礎看護実習	16	8	8	8
東海福祉専門学校	希望実習	15	3	20	4
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習	2	1	18	9
聖隷クリストファー大学	社会福祉援助技術実習	23	1	46	2
小笠高校	インターンシップ	3	1	—	—
合計		59	14	113	26

20 短期入居生活介護利用状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
利用者人数	41	42	45	47	45	42	44	48	45	42	41	37	519	482
総利用者数	267	270	268	264	281	251	256	281	283	243	233	264	3161	3,053

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成24年度
1日平均	8.9	8.7	8.9	8.5	9.1	8.4	8.3	9.4	9.1	7.8	8.0	8.5	8.7	8.4
送迎回数	124	124	120	133	111	128	125	138	137	114	104	113	123	113